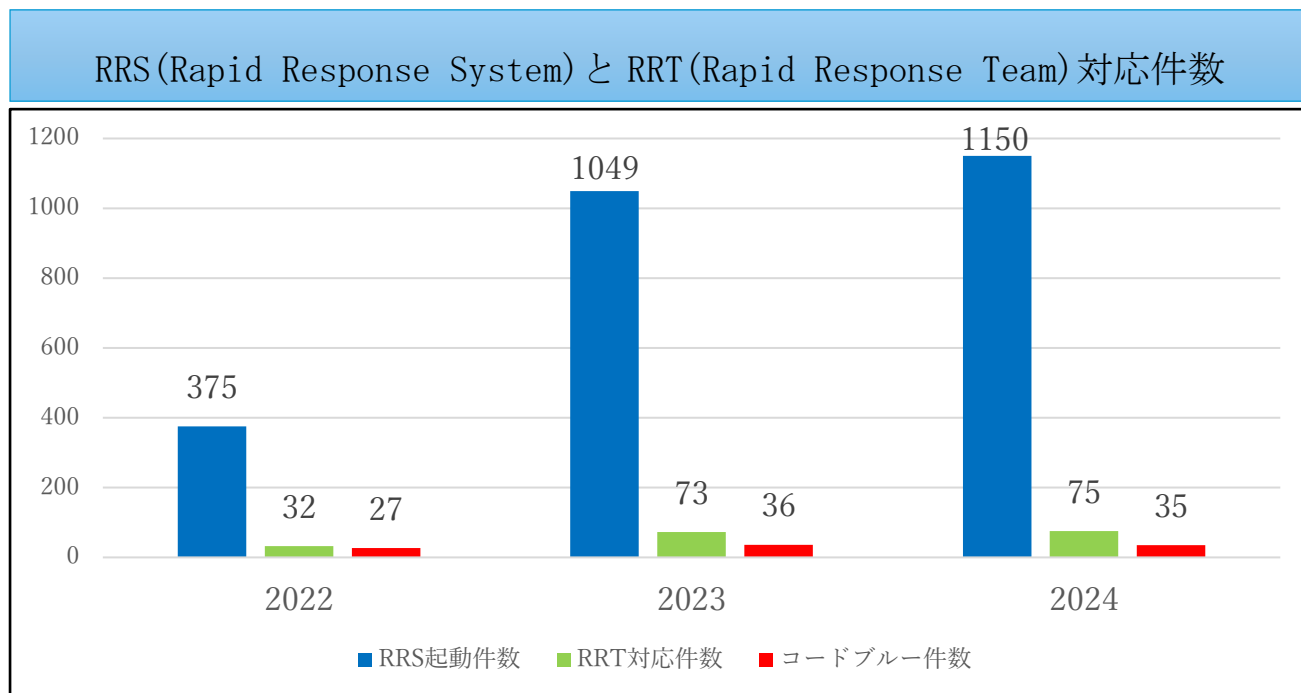


□RRS(Rapid Response System)とRRT(Rapid Response Team)対応件数



➤ 指標の説明

RRS（ラピッド・レスポンス・システム）は、入院中の患者さんに「急に具合が悪くなる前のサイン」が見られたときに、担当の医師や専門チーム（RRT）につなぐ仕組みです。RRT（ラピッド・レスポンス・チーム）は、主治医だけでは対応が難しい場合や判断に迷う場合に、相談や初期対応を行うチームであり、患者さんの状態悪化を早期に発見し、重症化を未然に防ぐ役割を担っています。RRSが円滑に稼働していることは、安全で質の高い医療を提供できているかを測る大切な指標のひとつです。

➤ 定義

- ・1年間のRRS起動件数
- ・1年間のRRT対応件数

➤ 評価

当院では、患者さんの体調の急変を早期に察知し、速やかに対応できる体制としてRRS（院内緊急対応システム）を整備しています。2022年度より、対応チーム（RRT）の活動を開始し、院内の体制を強化しました。その結果、RRSの起動件数およびRRTの対応件数はいずれも増加しました。2025年度からは、NEWS（National Early Warning Score）を導入し、患者さんの症状を数値化して評価することで、危険の兆候をより精度高く把握できるようになっています。今後はNEWSの運用をさらに明確化し、患者さんの急変兆候に対してより早く介入することによって、予期せぬ心停止（コードブルー）の減少に努め、より安全で安心できる医療の提供を目指します。